

T. S. TSUBOINA

Subgenus *Pristiterebra* Taki et Oyama, 1954 コゲチャタケ亜属↳ OF *NOBITEREBRA*Type species: *Terebra tsuboiana* Yokoyama コゲチャタケ

幼層の彫刻は上の両亜属に似るが、生長と共に肋は分れて疣の列となり、縫合下帯に2列、その下に3列以上になる。

*N. (P.) bifrons* (Hinds, 1843) オオコゲチャタケ (新称)

*N. (P.) tsuboiana* Yokoyama コゲチャタケ

*N. (P.?) taylori* (Reeve, 1860) ムラサキタケ

OYAMA 1961 Venus 21 p. 182

*Punctoterebra* Bartsch, 1923, Nautilus 37 (2): 63. Type species, *Terebra nitida* Hinds, 1844, recent, Indo-Pacific. "Spiral sculpture consisting of subsutural groove only; axial ribs present on all whorls; axial ribs strong; subsutural groove cutting intercostal spaces only." Subgenus of *Terebra*.

5 8 2 1987

NOBITEREBRA

Subgenus *Pristiterebra* Taki et Oyama, 1954 コゲチャタケ亜属も第1群とむしろ新

群を考へるべき第2群 (ムラサキタケ群) とに分ける。第1群は現生・化石ともに現在本邦の太平洋側に限られるが、第2群は本邦よりはむしろオーストラリア産が本邦に及ぶと云ったほうが良さそうである。生息深度は前者は海岸近くから 100 m. 位に及ぶが、後者では上浅海帯に普通で、せいぜい中浅海帯位までにしか及ばない。

*N. (P.) bifrons* (Hinds, 1844) オオコゲチャタケは次種と混同されたため分布があまり明でないが、館山・愛知県沖・高知県沖 (約 20 m.) の3ヶ所は確め、宮崎県産も本種ではなかろうか。掛川地方 (掛川層群) の化石として知られる *N. (P.) bifrons ozawai* (Yokoyama, 1926) (+ *Terebra bifrons ugaliensis* Makiyama, 1927) との関係は検討を要する。

*N. (P.) tsuboiana* (Yokoyama, 1922) コゲチャタケは相模海湾 (江ノ島・逗子・鎌倉) から仙台附近 (七ヶ浜・塩釜) にまで分布し、冬には生きたままで打上げることがある。化石は成田層群にはかなり多く報告された。これも前種と混同された。木下・大竹・酒々井・発作の貝は本種である。

*N. (P.) cocoana* Oyama, ココアタケ (新称) は愛知県沖 (90~100 m. 位)・銚子沖に棲み、化石は千葉県の上総層群 (岩出・笹毛) と成田層群 (地藏堂・当日) に産する。(近く発表)。

*N. (P.) asukensis* (Yokoyama, 1926) アスカタケ (新称) は掛川地方 (掛川層群) と宮崎県 (高鍋層群) とから報告された化石である。

第2群はムラサキタケ類でオーストラリアに何種か産し、本邦にも分布するものである。

*N. (P.?) "taylori"* (Reeve, 1860) ムラサキタケはオーストラリア産に同定することは形態の上からも分布の上からも賛成しかねる。本邦では沖縄から福岡県の津屋崎に至る九州西岸に産する。

*N. (P.?) brunnea* (Kuroda, 1928) クライロヒメタケは奄美大島と伊豆白浜のテングサ干場とから採集された。

*N. (P.?) suavidica* (Yokoyama, 1922) ムサシノヒメタケ (新称) は成田層群の化石として知られて居る。 OYAMA 1961 Venus 21 p. 44